

2021年度活動報告・2022年度活動方針

2021年度活動報告

2021年度も引き続きコロナ禍の影響で対面での活動は控え、これを機会にオンラインやSNSを活用した広報活動に力を入れてきた。①既に出資をしているかオイコクレジットに対する理解を深めることと、②対面で出会えない潜在的顧客にアプローチをすることを目指した。その結果、既存組合員からの追加出資が得られ、出資金総額は増加した。他方、事業の性質上そのような手段での新規会員の参加は少なく、高齢による退会も相次いだ結果、組合員数の微減となった。客観的に見れば、組織としてはコロナ禍にもかかわらず安定的であったと言え、協同組合という組織的性格に負っていると思われる。

1. 組合員数と出資実績 (2022年3月末)

組合員 108名 出資額 42,754,500 円

2. 日本におけるオイコクレジットの認知度拡大と、理解を深めるために行ってきた活動

- (1) 翻訳チームを作り、ほぼ一か月に一度のペースで、Oikocreditの興味深いプロジェクトの紹介や、二本のまとまった報告書『社会的インパクトレポート2021』と『コロナによる顧客へのインパクト調査』の全文を翻訳紹介し、ホームページに掲載。その導入部分をFacebookにあげ、ホームページ上の記事のリンクを貼って、本文へ誘導した。これらの力作は既存の組合員が追加の出資を検討することにはつながったが、新規の出資者を発掘するために有効に活用するという点では課題が残った。
- (2) マイクロファイナンス・カフェを3年ぶりに10月31日に実施。バングラデシュのマイクロファイナンスの現状と問題について研究している講師を招き、グラミン型ビジネスモデルの問題点や、安易な融資は金融包摂を後退させることを学んだ。
- (3) 大阪女学院大学や名古屋学院大学でOikocreditの取り組みが貧困実態とその削減にどうかかわっているかについて講義した。

(4) ハチドリ電力の社会的活動団体紹介欄で、オイコクレジット・ジャパンの活動を紹介し、約300人のハチドリ電力利用者からオイコクレジット・ジャパンへの寄付が13,017円あった。

3. 組織的性格の変更（一般社団法人化）に向けて

公証人役場への提出段階で、解散時の出資金処分方法の明記に対して、「一般社団法人の残余財産は社員に分配できない」という指摘があった。その規定とどう両立させるのかで、オイコクレジット・ジャパンのような組織の事例がなかったため、関係者への相談などで時間が経過し、年度内の登記ができなかった。その後、「拠出金」による「基金の設置」とすることで問題をクリアし、登記手続きを進めている。

2022年度活動方針

1. Oikocreditのプロジェクト支援の価値がわかるような記事の発信をFacebookで引き続き定期的に行い、また、より魅力的な画面作りを目指す。単に英文ニュースの翻訳ではなく、プロジェクトの背景を加えたストーリーとして提供していく。
2. 社員や開発に関心のある人々を対象としたセミナーを持つ。
 - ① Oikocreditおよびオイコクレジット・ジャパンが組織的仕組みとしては協同組合であり、支援先も協同組合との付き合いが長いことの意味を理解してもらい、参加や拠出の増加につなげるためのセミナー「連帯金融としてのオイコクレジットと協同組合」（5月に実施済）。
 - ② 2022年から26年にかけて新しい戦略の核になっている「コミュニティ開発」の事例に関して学ぶセミナー。
3. 一般社団法人となったことを広報の良い機会として、パンフレットを刷新し、対面接触の可能なイベントなどで配布する。

以上